

第200回 中小企業の景気動向調査

調査時点	2024年5月下旬～6月上旬
調査対象期間	2024年4月～5月実績・6月予想値 2024年7月～9月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先1,641社(大阪府内ならびに尼崎市)
回答企業数	702社
回答率	42.7%
調査方法	調査票郵送による回答、インターネットによる回答
分析方法	DI(Diffusion Index)を中心に分析 DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」(上昇)と回答した企業割合から「減少」(低下)と答えた企業割合を差し引いた値 〔例:売上DIの場合〕 売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業
45%

「変わらず」
20%

売上が「減少」した企業
35%

45% - 35% = 10% ← 売上DI

アンケート回答企業の内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4	38	27	37	5	27	24	1	37	196	27.9%	27.9%
5～10	72	20	8	5	40	17	4	17	183	26.1%	54.0%
11～20	61	16	4	5	22	9	6	4	127	18.1%	72.1%
21～30	27	4	4	5	9	7	8	3	67	9.5%	81.6%
31～50	19	8	3	2	4	8	2	1	47	6.7%	88.3%
51～100	12	5	4	2	5	12	7	4	51	7.3%	95.6%
101～	11	5	2	0	2	7	2	1	30	4.3%	99.9%
従業員数不明	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.1%	100.0%
計	240	85	62	24	110	84	30	67	702	100.0%	
構成比	34.2%	12.1%	8.8%	3.4%	15.7%	12.0%	4.3%	9.5%	100.0%		

売上D Iは-11.3（前回比△3.8ポイント）、収益D Iは-18.5（前回比△2.8ポイント）となり、前回調査時の4-6月期の見通しと比べ、売上D Iは8.2ポイント、収益D Iは8.1ポイントそれぞれ下振れました。

売上D Iは、飲食業が-26.1（前回比△47.1ポイント）、製造業が-21.6（前回比△16.6ポイント）、運輸業が0.0（前回比△3.0ポイント）、建設業が-11.9（前回比△1.6ポイント）と4業種が下落したことが要因であり、大手企業とは対照的に中小企業は依然として苦戦を強いられています。

販売価格D Iは、19.9（前回比+4.2ポイント）、販売数量D Iは-17.2（前回比△8.3ポイント）となり、販売数量が減少しており、賃上げや定額減税があるものの、景気の先行き不安から顧客の節約志向は根強いと思われます。

2024年7-9月期は、売上D Iが5.7ポイント、収益D Iが3.4ポイント、販売価格D Iが1.6ポイント、販売数量D Iが7.0ポイントそれぞれ上昇すると予測し、回復への決め手に欠ける中、業況はやや回復すると予想しています。

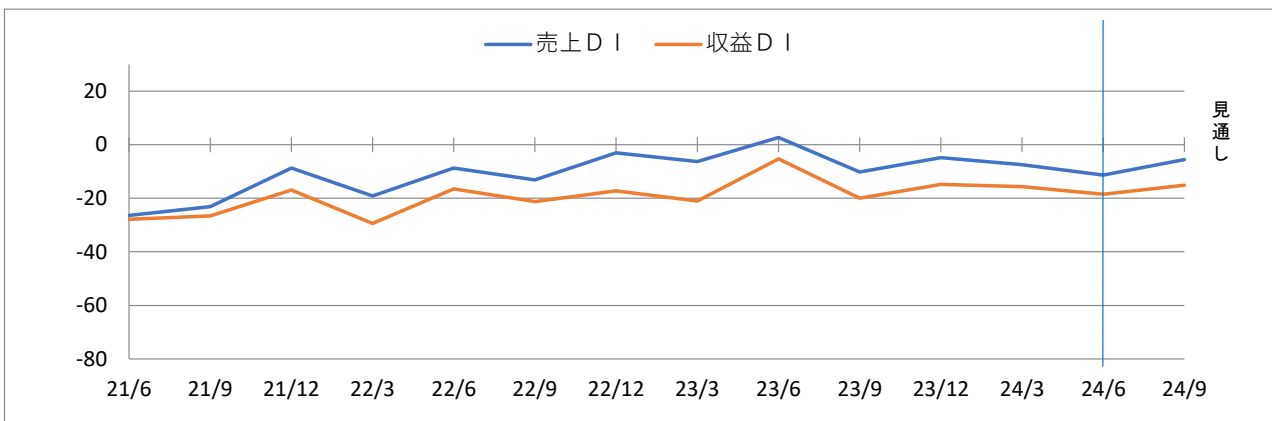
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が74.1%（前回比+0.8ポイント）、「売上停滞減少」が51.7%（前回比+3.6ポイント）、「一般経費増大」が49.5%（前回比+0.1ポイント）、「人手不足」が41.0%（前回比+0.7ポイント）となり、さらに深刻さを増しています。

「仕入単価上昇」は8業種中、製造業、卸売業、飲食業、建設業、不動産業の5業種で前回から増加し、解決の糸口が見い出せません。

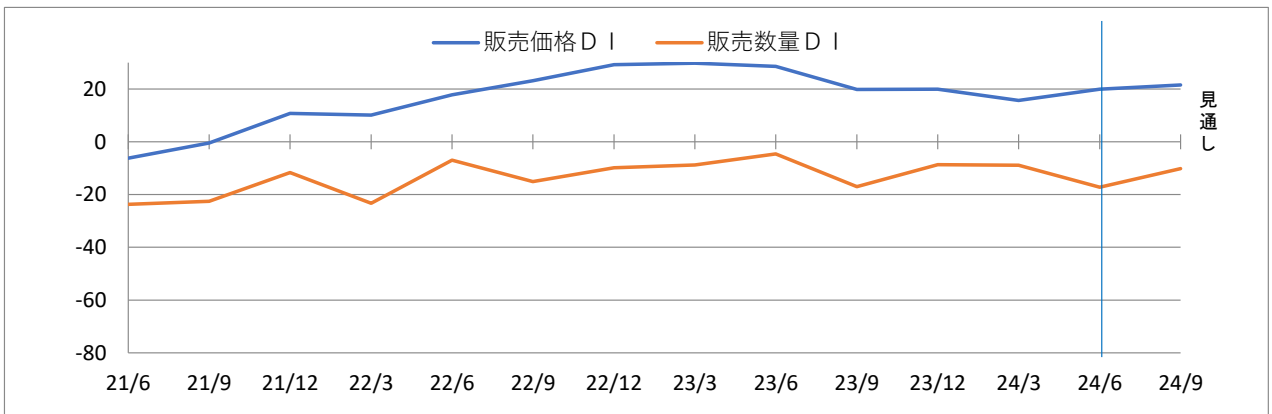
設備投資は「実施中」14.7%（前回比+0.9ポイント）、「予定あり」14.3%（前回比+0.8ポイント）の合計29.0%となり、堅調な推移が続いています。

売上D I・収益D Iの推移

n= 702

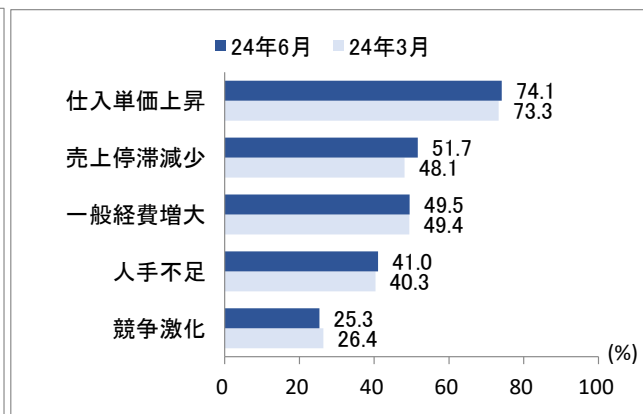
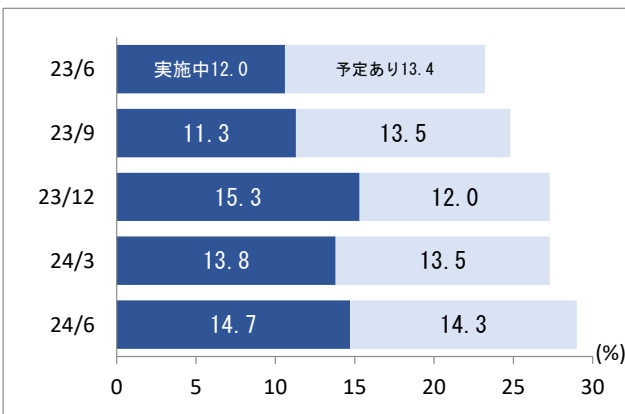


販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向

経営上の問題点



売上D Iは-21.6（前回比△16.6ポイント）、収益D Iは-28.9（前回比△15.3ポイント）となり、前回調査時の4-6月期の見通しと比べ、売上D Iは12.0ポイント、収益D Iは13.2ポイントそれぞれ下振れしました。販売数量の減少が、売上D I下落の主な要因となっています。

2024年7-9月期は、売上D Iが3.4ポイント、収益D Iが0.6ポイント、販売価格D Iが10.6ポイント、販売数量D Iが4.7ポイントと、それぞれ上昇すると見込んでいます。

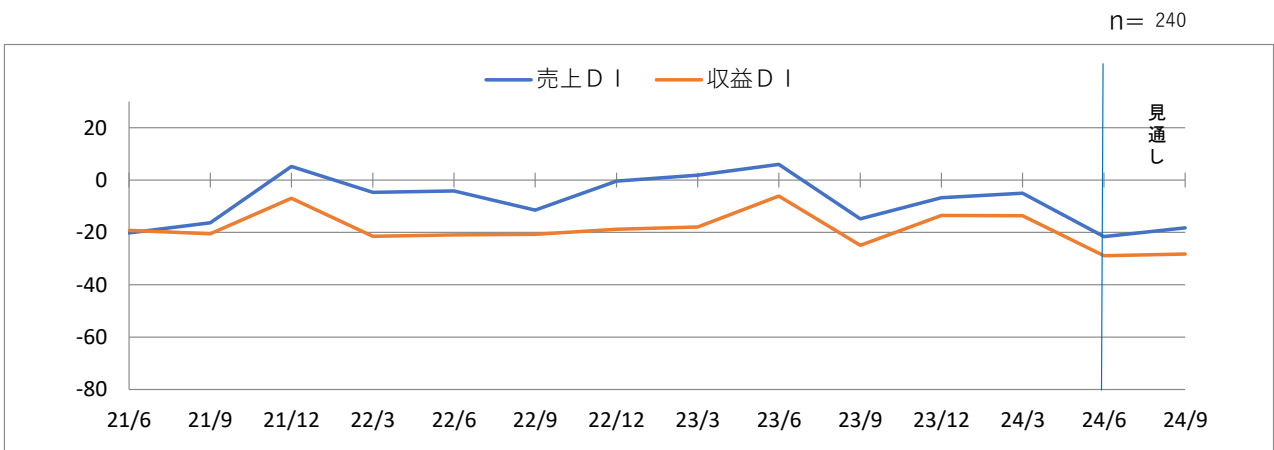
受注のパイはあるもののコスト高が長期化し、人手不足もあって注文を取りづらい状況が続いています。

前回調査から業況は悪化し、回答企業からは、「原料を輸入に頼っているので過度の円安は悪影響だ」「製造業全体に停滞感がある」「賃上げにどこまでついていけるか不安だ」との声が聞かれました。

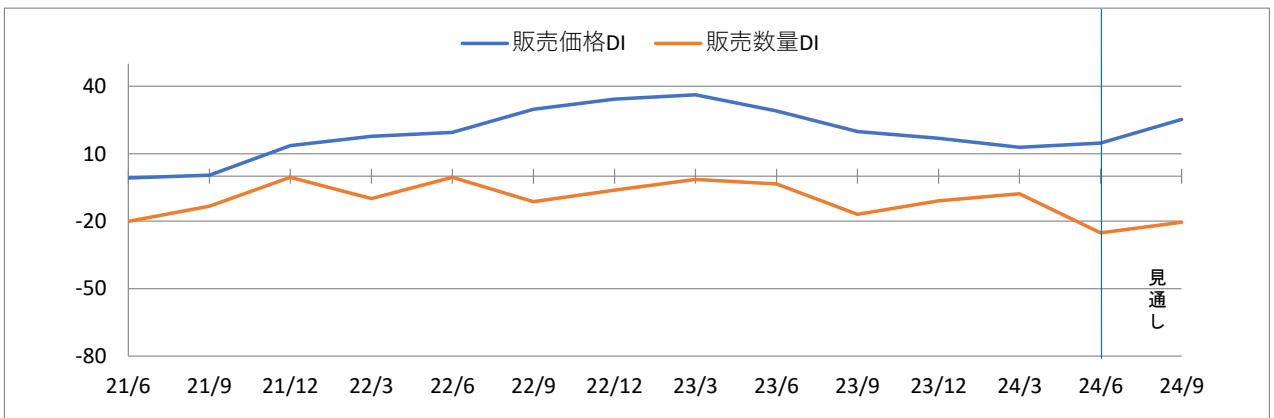
原材料の高騰による利益の減少、諸経費の削減も限界まで切り詰めており、これ以上の値上げは厳しい企業が多いと思われます。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が82.8%（前回比+1.9ポイント）、「売上停滞減少」が66.5%（前回比+5.1ポイント）、「一般経費増大」が53.1%（前回比+5.4ポイント）、「人手不足」が40.2%（前回比+3.8ポイント）と一層強まっています。

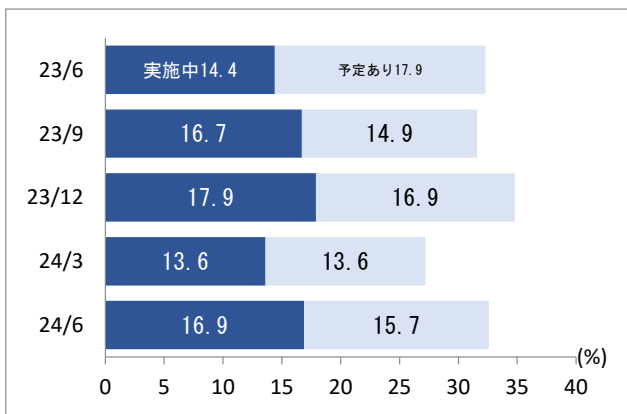
設備投資は「実施中」が16.9%（前回比+3.3ポイント）、「予定あり」が15.7%（前回比+2.1ポイント）で合計32.6%となり、前回調査から設備投資意欲はやや回復しています。



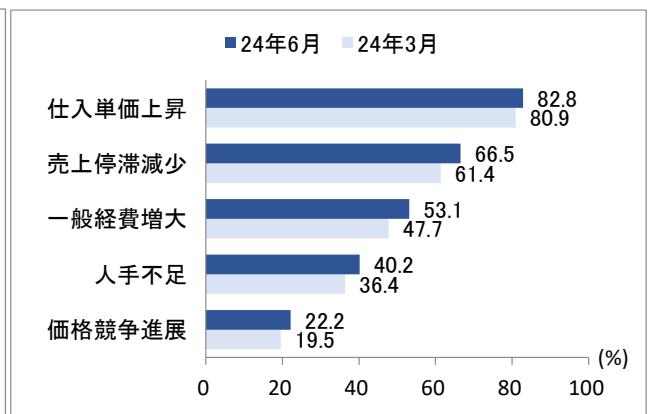
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



売上D Iは5.9（前回比+9.6ポイント）、収益D Iは-9.6（前回比+7.5ポイント）となり、前回調査時の4-6月期の見通しと比べ、売上D Iは1.0ポイント上振れし、収益D Iは10.8ポイント下振れしています。

回答企業からは、「円安が業績に悪影響を及ぼしており、これ以上の自助努力による対応は難しい」、「仕入先メーカーの生産中止や生産量の減少で在庫が減少、商品の入手が困難になっている」との声が聞かれ、先行きに不安を抱えています。賃上げは実施されましたが、物価の上昇はまだまだ続いており、個人消費の回復に結び付くのか未知数です。

2024年7-9月期は、売上D Iが5.9ポイント、収益D Iが1.2ポイント、販売価格D Iが12.3ポイントそれぞれ下落し、販売数量D Iが4.7ポイント上昇すると見込んでいます。

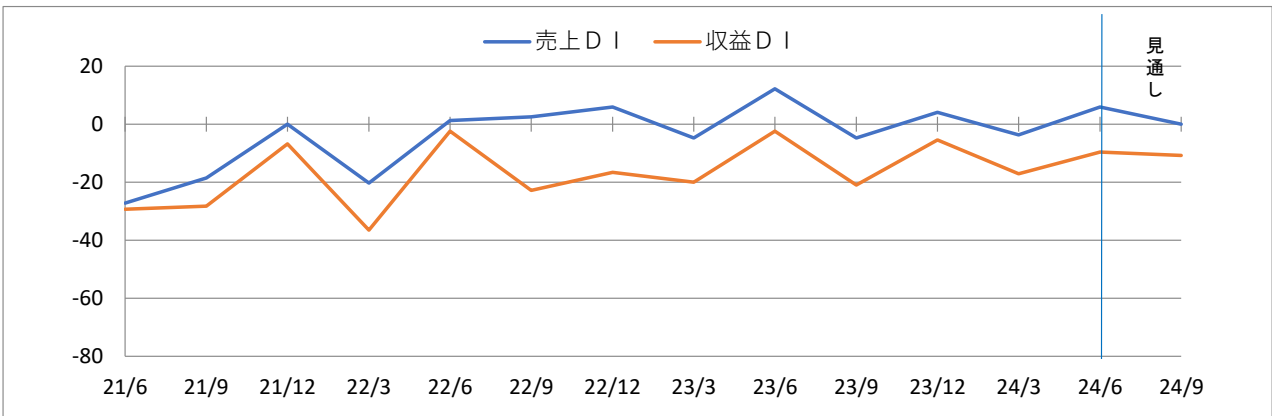
2024年問題による運送業界への影響も出始めており、仕入スケジュールの設定が難しくなる企業も出てきました。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が77.4%（前回比+11.6ポイント）、「売上停滞減少」が59.5%（前回比+4.7ポイント）、「一般経費増大」が48.8%（前回比+15.9ポイント）と一層強まって深刻化しています。

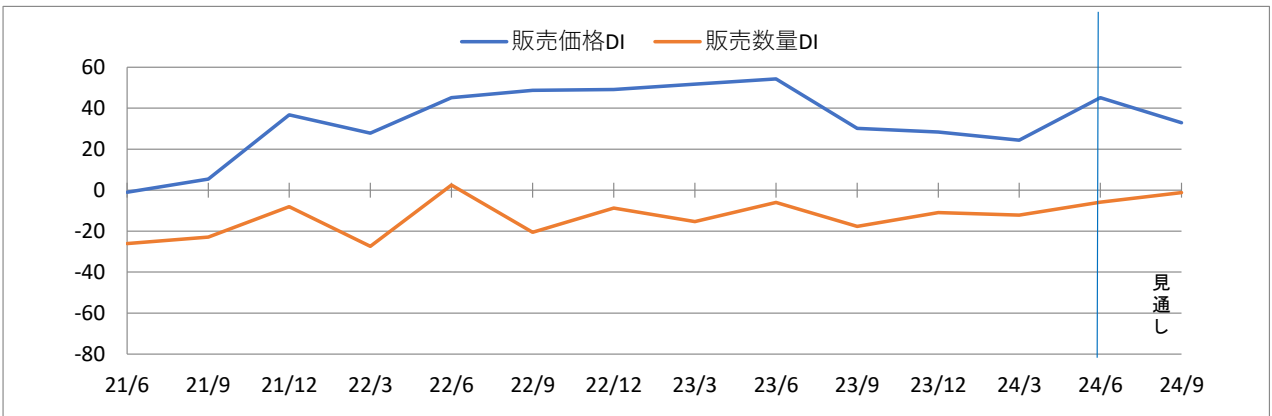
設備投資は「実施中」が17.7%（前回比+6.3ポイント）、「予定あり」が12.7%（前回比△2.5ポイント）で合計30.4%となり、設備投資意欲は堅調に推移しています。

売上D I・収益D Iの推移

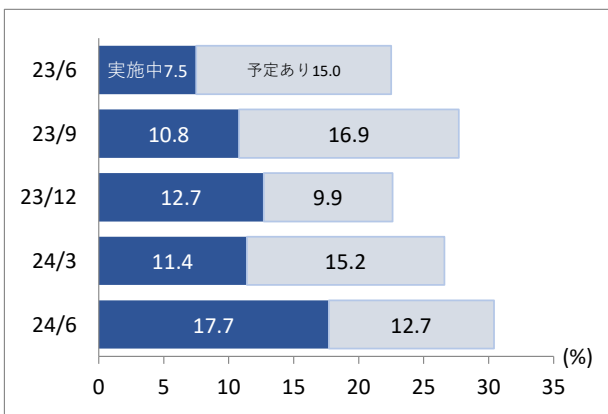
n = 85



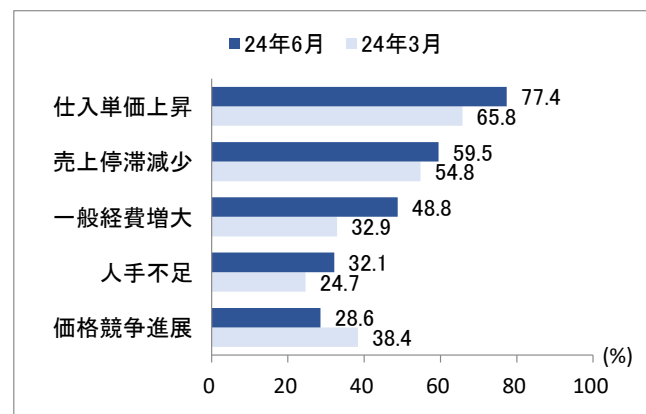
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



小売業

厳しい価格引上げ 買い控え不安

売上D Iは-16.1（前回比+8.5ポイント）、収益D Iは-19.4（前回比+6.9ポイント）となり、前回調査時の4-6月期の見通しと比べ、売上D Iは5.6ポイント、収益D Iは0.1ポイントそれぞれ下振れました。前回調査から業況は回復したものの、賃上げや定額減税も個人消費マインド払拭にはつながらず、力強さに欠けます。

販売価格D Iは32.2（前回比+5.9ポイント）、販売数量D Iは-26.2（前回比△1.6ポイント）となりました。回答企業からは、「仕入価格の上昇により販売価格を値上げしなければならないが、消費者の買い控えが心配です」との声が聞かれ、顧客の減少に不安を抱えています。

2024年7-9月期は、売上D Iが4.5ポイント上昇し、収益D Iが±0ポイントと予想し、販売数量の増加による売上の回復に期待を寄せています。

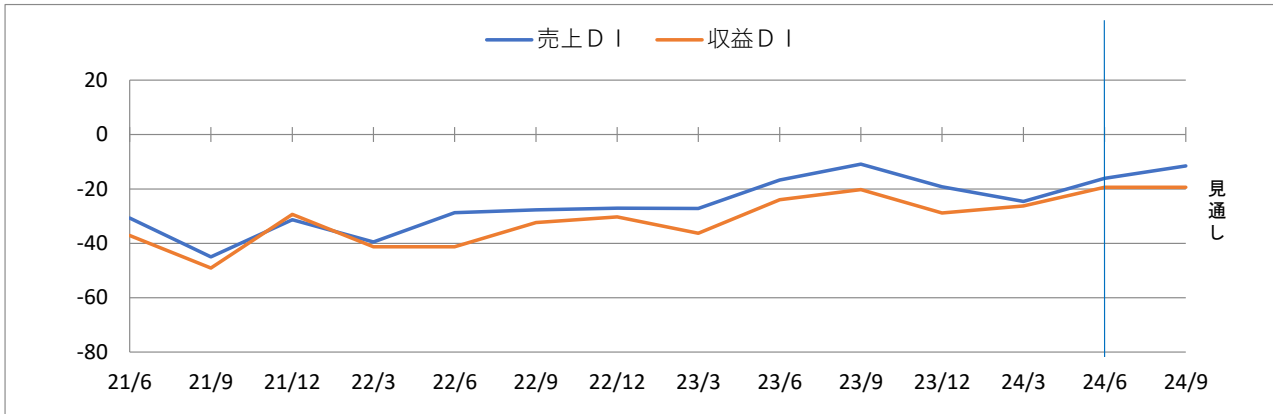
顧客の節約志向が強まるなか、賃上げや定額減税による効果に期待されるものの、個人消費マインドの上昇に繋がるのかは不透明です。

経営上の問題点は、「仕入単価の上昇」が67.2%（前回比△1.9ポイント）と最大ですが、「売上停滞減少」が57.4%（前回比+2.9ポイント）に急伸し、繁華街を除く小売店では深刻化しています。

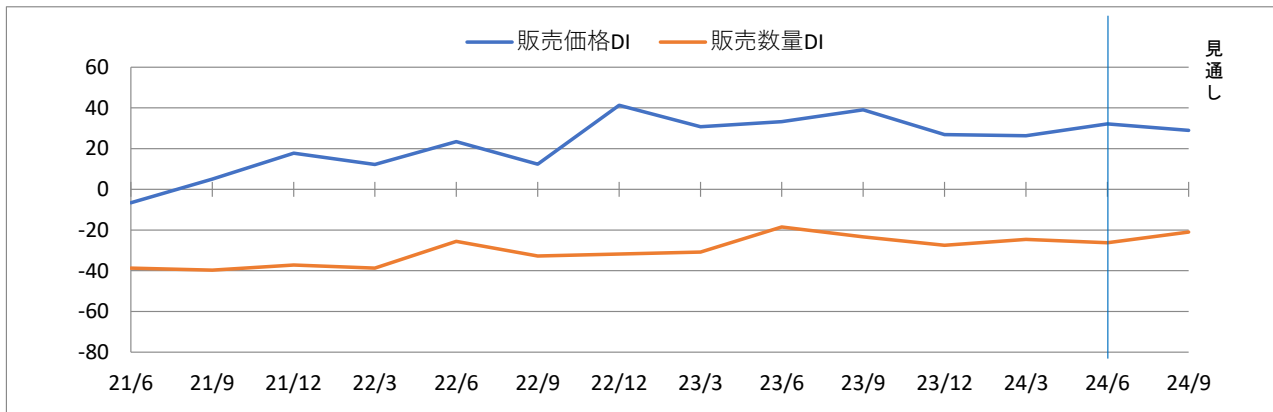
設備投資は「実施中」16.4%（前回比+5.5ポイント）、「予定あり」が6.6%（前回比+3.0ポイント）で合計23.0%となり、設備投資意欲は前回調査から上向いています。

売上D I・収益D Iの推移

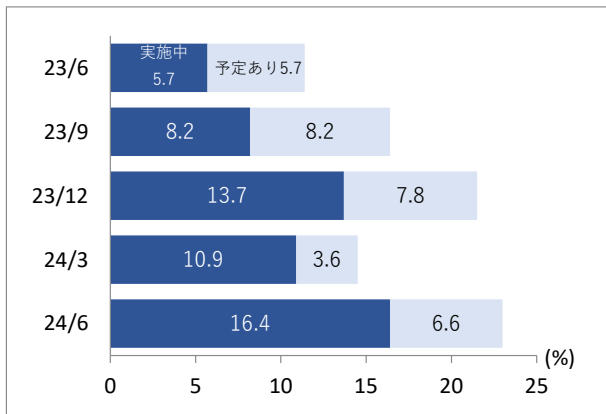
n = 62



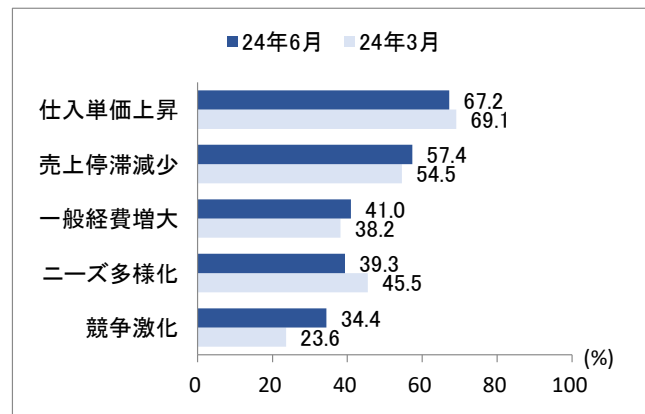
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



売上D Iは-26.1（前回比△47.1ポイント）、収益D Iは-30.5（前回比△14.8ポイント）と、前回調査時の4-6月期の見通しと比べ、売上D Iは41.9ポイント、収益D Iは14.7ポイントそれぞれ下振れしています。

販売価格D Iは17.4（前回比△15.9ポイント）、販売数量D Iは-30.4（前回比△47.1ポイント）となり、価格、数量ともに大きく後退しました。

回答企業からは、「原材料費の高騰が凄い、人件費も年々上昇しているので値上げしたいがなかなかできない」との声が聞かれます。輸入食材だけでなく国内食材も天候不順により高騰が続き、事業に大きな悪影響を及ぼしています。実質賃金が伸び悩む中、節約志向は一層強まって個人消費マインドは低調で、外食の機会は減少しています。繁華街の飲食店では、インバウンド需要による好影響を受けていますが、郊外飲食店ではその影響も小さく、苦戦を強いられています。

2024年7-9月期は、売上D Iが4.4ポイント、収益D Iは5.5ポイント、販売価格D Iは0.8ポイント、販売数量D Iは12.2ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。

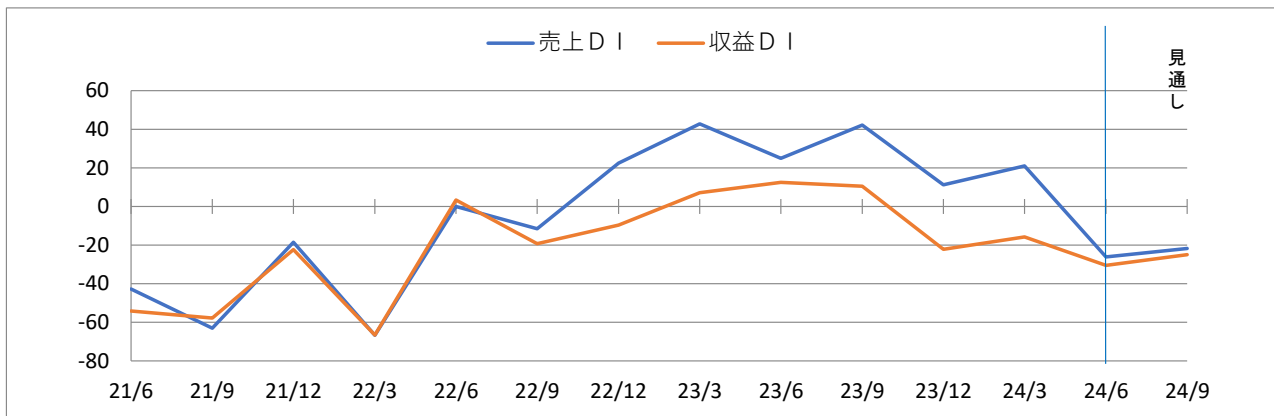
4月からの賃上げによる効果の実感は少なく、いまのところ個人消費マインドの回復には繋がっていません。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が95.8%（前回比+5.8ポイント）まで急伸し、「一般経費増大」が70.8%（前回比△4.2ポイント）、「人手不足」が62.5%（前回比△2.5ポイント）と高止まりしています。

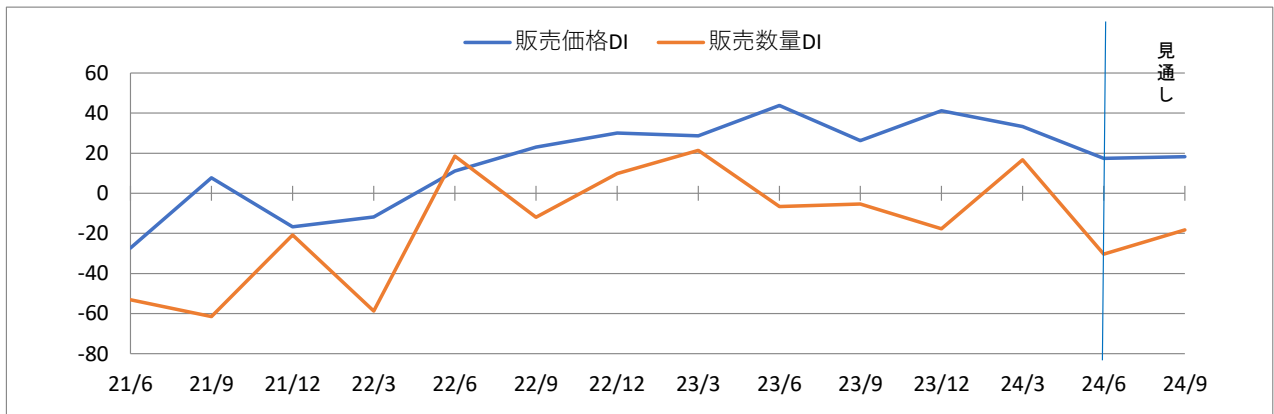
設備投資は「実施中」が25.0%（前回比+15.0ポイント）、「予定あり」が12.5%（前回比△12.5ポイント）で合計37.5%となり、「予定あり」が減少するものの合計では前回調査と同水準で推移しています。

売上D I・収益D Iの推移

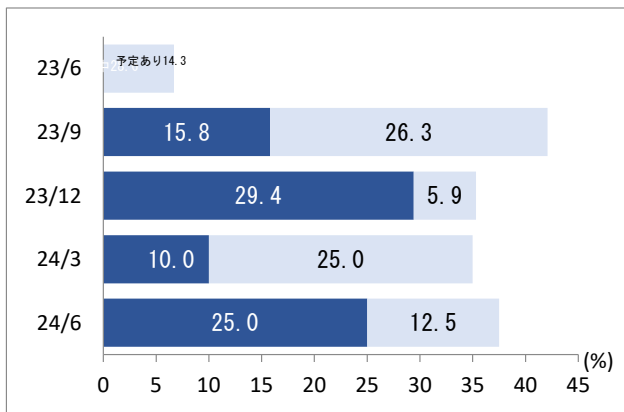
n = 24



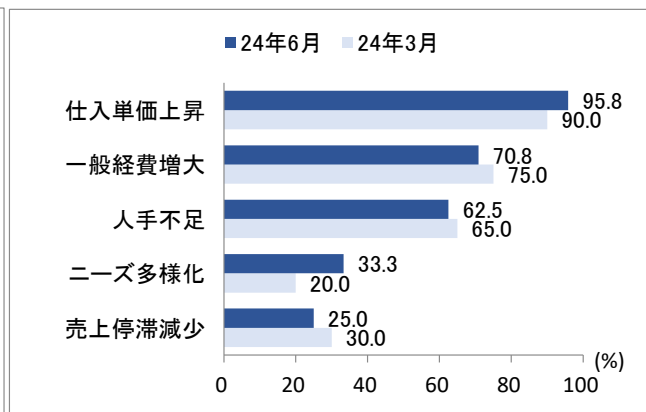
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



売上D Iは-11.9（前回比△1.6ポイント）、収益D Iは-14.7（前回比△1.1ポイント）と下落し、前回調査からやや後退しました。前回調査時の4-6月期の見通しと比べ、売上D Iが8.7ポイント、収益D Iが5.2ポイントそれぞれ下振れています。

販売価格D Iは10.8（前回比+0.9ポイント）、販売数量D Iは-12.1（前回比△8.3ポイント）となり、数量が後退しています。

5月までの大阪の公共工事の累計は、件数・請負金額ともに前年比増加しています。

大阪万博関連受注の増加や、コロナ禍で止まっていた工事の再開による売上は増加し、個人宅のリフォームなど小規模な工事は減少しています。賃金や国内金利の動向を考慮し、一戸建て住宅の受注は価格の高止まりと相まって少なくなっています。

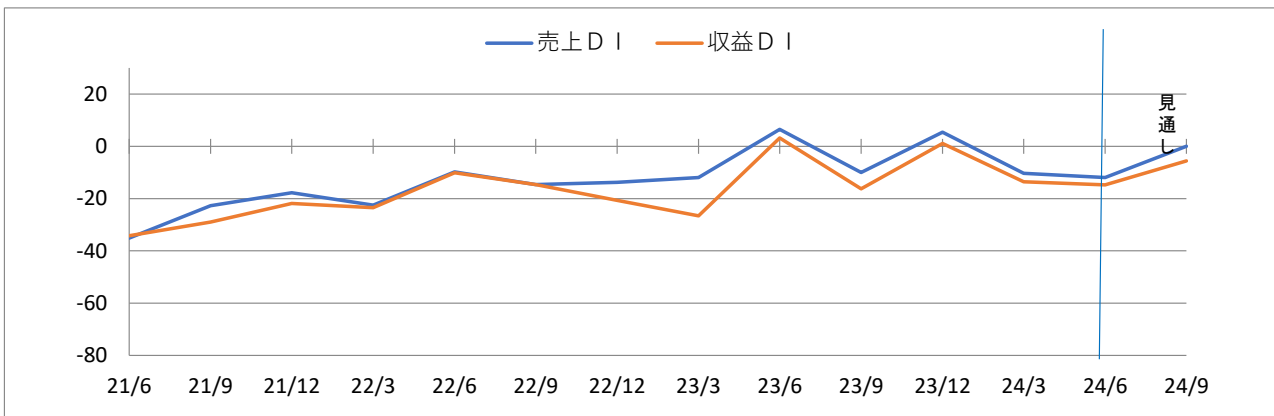
2024年7-9月期は、売上D Iが11.9ポイント、収益D Iが9.1ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。

経営上の問題点は、依然として「仕入単価上昇」が80.7%（前回比+2.3ポイント）、「人手不足」が58.7%（前回比△3.2ポイント）と高止まりが続いています。回答者からは、「経営課題は人材不足に尽きます」という声が聞かれ、問題の深刻さが伺えます。

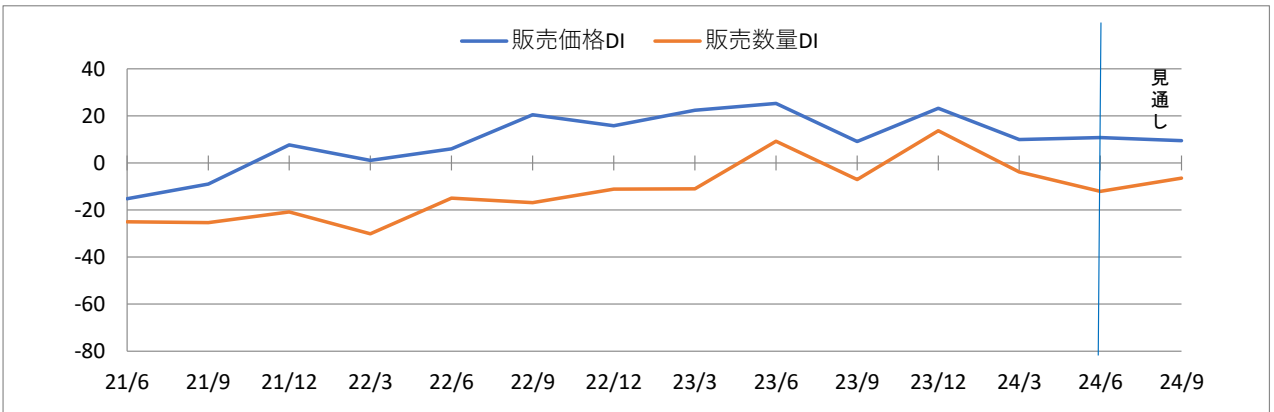
設備投資は「実施中」が6.5%（前回比△0.8ポイント）、「予定あり」が13.9%（前回比△3.8ポイント）で合計20.4%となり、前回調査から設備投資意欲は後退しています。

売上D I・収益D Iの推移

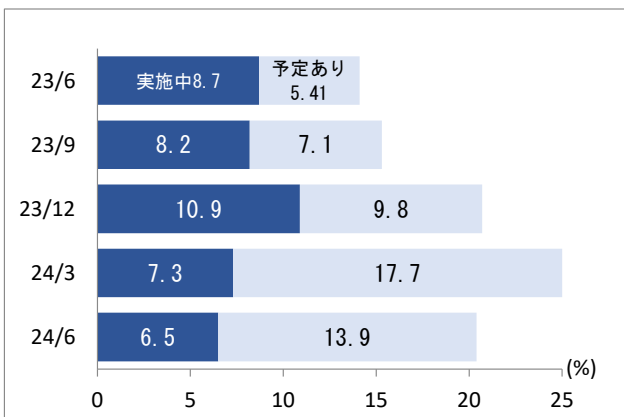
n= 110



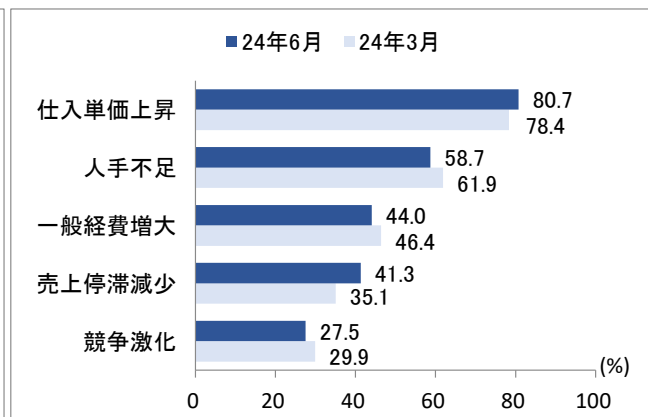
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



サービス業

インバウンド復活 外国人宿泊増加

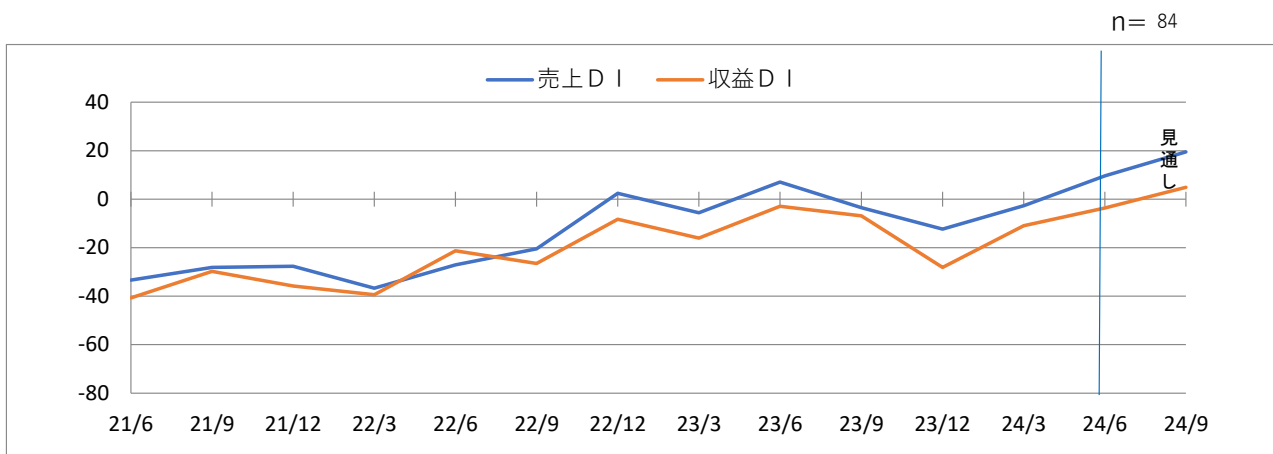
売上D Iは9.6（前环比+12.3ポイント）、収益D Iは-3.6（前环比+7.3ポイント）と大きく上昇しました。前回調査時の4-6月の見通しを売上D Iは8.3ポイント上振れし、収益D Iは0.9ポイント下振れしています。

販売価格D Iは12.9（前环比△1.1ポイント）、販売数量D I -1.5（前环比△1.5ポイント）となっています。民泊などの宿泊業は、インバウンドによる外国人宿泊客が増加し、売上が急増しています。

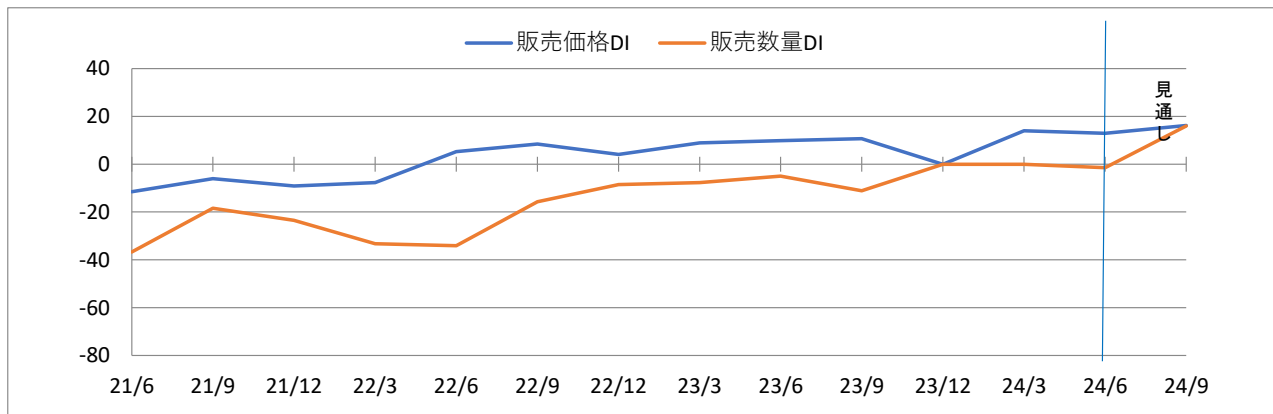
2024年7-9月期は、売上D Iが9.9ポイント、収益D Iは8.5ポイントそれぞれ上昇し、販売価格D Iが3.3ポイント、販売数量D Iが17.5ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。インバウンド需要による外国人観光客の増加は今後も見込まれますが、物価の上昇は依然続いており、景気の先行きに対する不安から、顧客の節約志向はますます強まっています。

経営上の問題点は、「人手不足」が53.7%（前环比△3.8ポイント）と根強い問題点であり、また、「一般経費増大」が48.8%、「仕入単価上昇」が41.5%となって、厳しい状況が続いています。

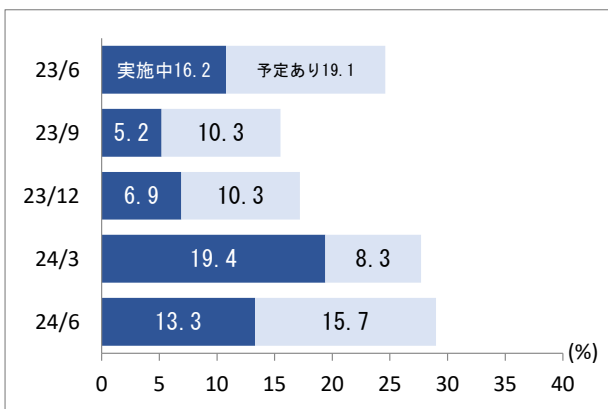
設備投資は「実施中」が13.3%（前环比△6.1ポイント）、「予定あり」が15.7%（前环比+7.4ポイント）で合計29.0%となり、設備投資意欲は横ばいに推移しています。



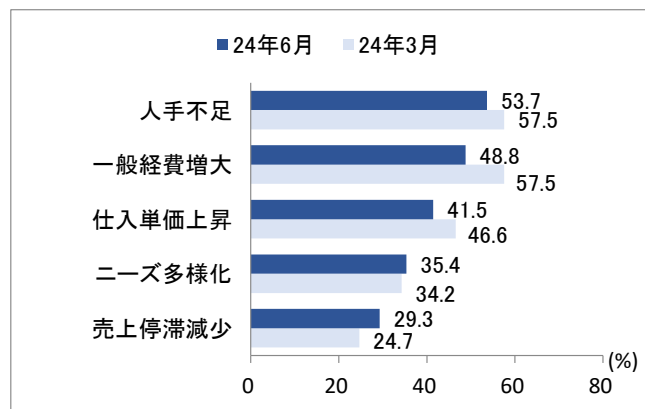
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点

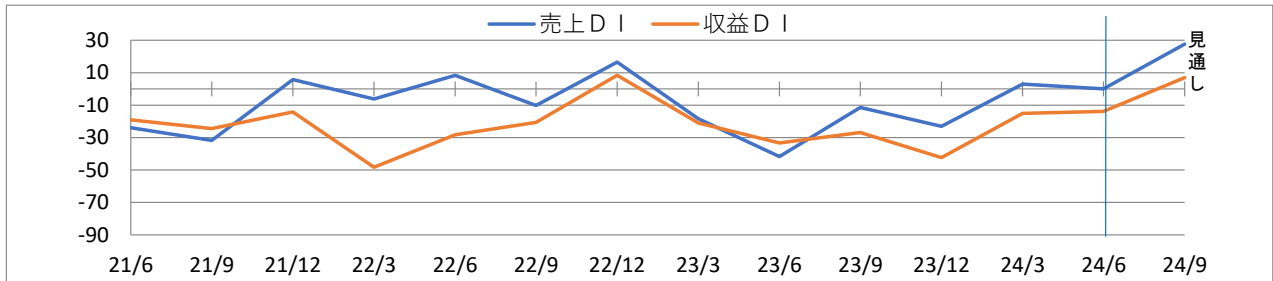


運輸業

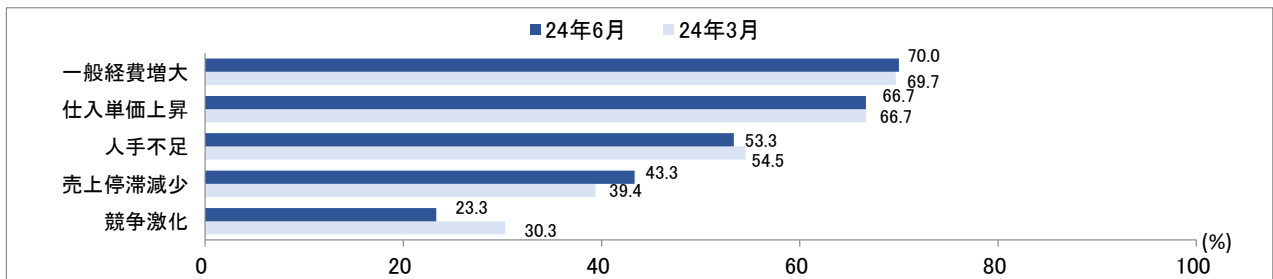
2024年問題 迫る人手不足

売上D Iは0.0（前回比△3.0ポイント）、収益D Iは-13.8（前回比+1.3ポイント）となりました。
 前回調査時の4-6月の見通しから、売上D Iは24.2ポイント、収益D Iは10.8ポイントそれぞれ下振れし、2024年7-9月期は、売上D Iが27.6ポイント、収益D Iは20.7ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。
 賃上げや定額減税による個人消費の回復までには、もう少し時間が必要と思われまます。
 経営上の問題点は、「一般経費増大」が70.0%、「仕入単価上昇」が66.7%、「人手不足」が53.3%となりました。円安にともなう燃料費の高止まりは依然として続き、2024年問題への対応にも迫られて課題は山積しています。

売上D I・収益D Iの推移



経営上の問題点

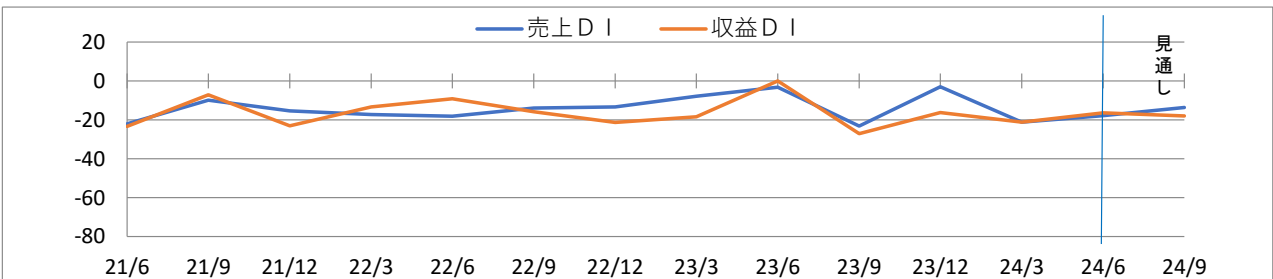


不動産業

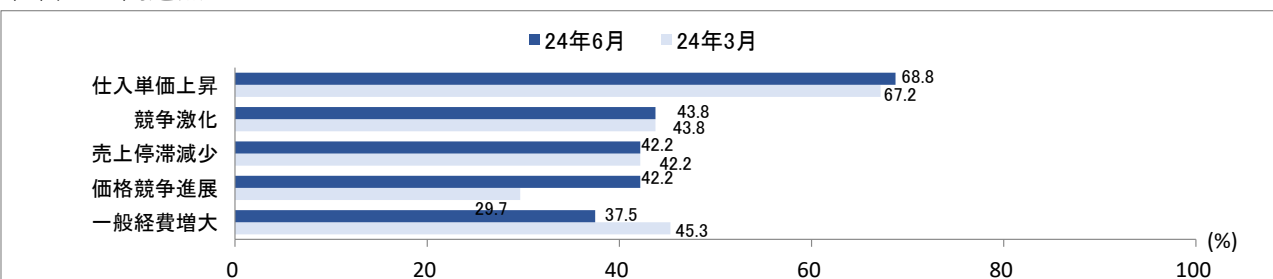
動かない物件 難しい高価格対応

売上D Iは-17.9（前回比+3.3ポイント）、収益D Iは-16.4（前回比+4.8ポイント）とそれぞれ上昇し、前回調査時の4-6月期の見通しから、売上D Iは8.7ポイント、収益D Iは4.1ポイント下振れました。
 物件価格の高止まりは続き、区分所有物件も売却できず賃貸物件として運用する企業も出てきています。
 経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が68.8%となり、また金利動向の先行きが見通せないなど、物件購入には至らないケースが増加しています。

売上D I・収益D Iの推移



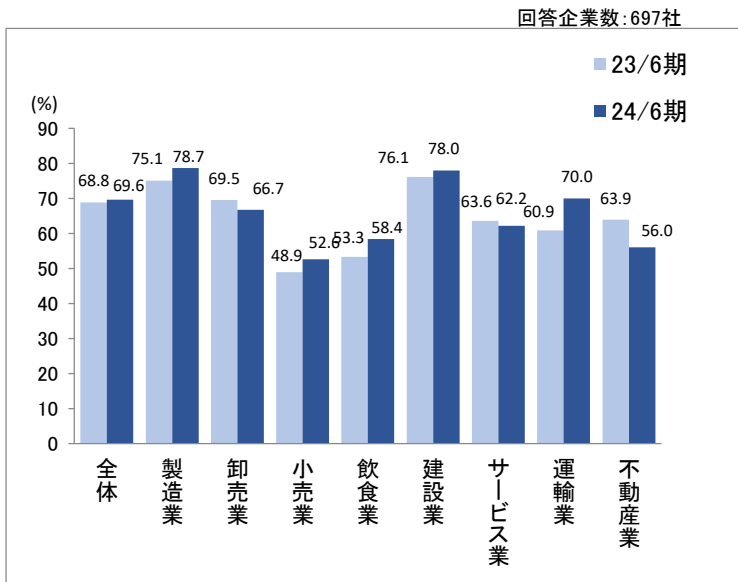
経営上の問題点



夏季賞与支給状況

支給企業増加 金額微減

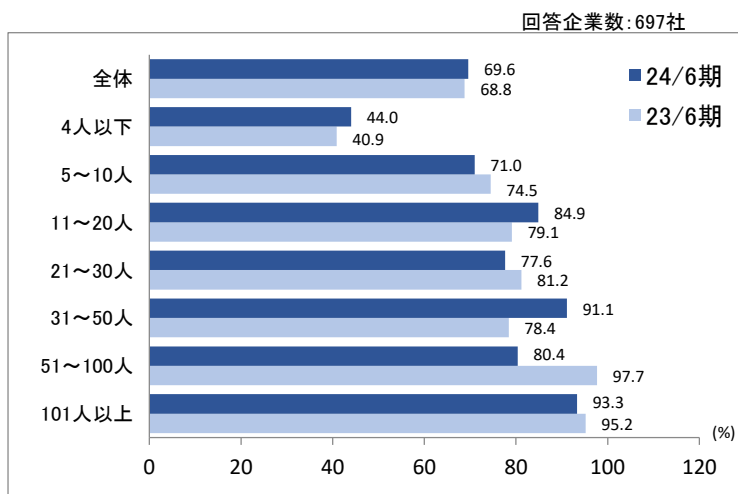
夏季賞与(業種別)



夏季賞与について、「支給する」が69.6%（昨年比+0.8ポイント）となりました。昨年から上昇したのは、製造業が78.7%、建設業が78.0%、運輸業が70.0%、飲食業58.4%、小売業が52.6%と8業種中5業種で増加し、人手不足感が強い業種を中心に増加しています。

景気の先行きが見通せない中、やむなく支給しており、どこまで続けられるか不安を抱える企業が増加しています。

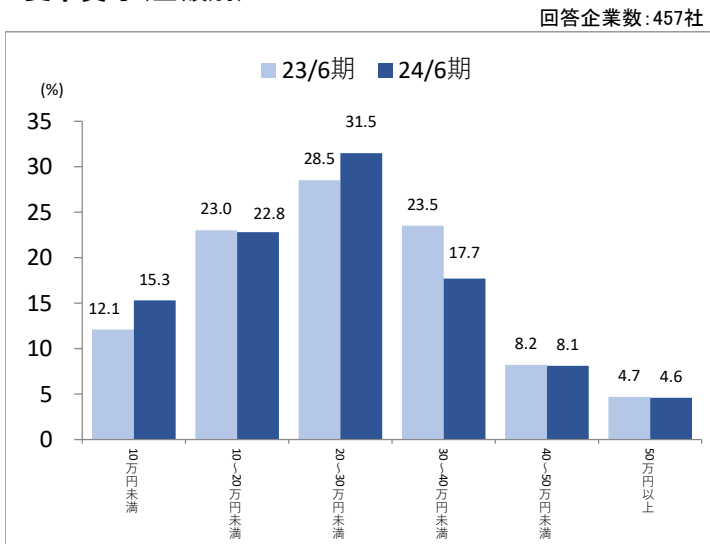
夏季賞与(従業員数別)



従業員数別では、「4人以下」44.0%（昨年比+3.1ポイント）、「11~20人」84.9%（昨年比+5.8ポイント）、「31~50人」91.1%（昨年比+12.7ポイント）が上昇し、支給率が改善しました。

従業員規模が大きくなるに伴って支給率が高くなり、「4人以下」の家族経営の小規模事業所が低くなる特徴がはっきりと表れる結果となりました。

夏季賞与(金額別)



金額別では、支給する企業が増加したのは、「10万円未満」が15.3%、「20~30万円未満」が31.5%に上昇する一方、「30~40万円未満」は17.7%に下落しました。

昨年と比べ、一時金での支給はやや減少する結果となりました。

仕入価格上昇などによるコストの増加が長期化しており、支給金額は減少したと思われます。